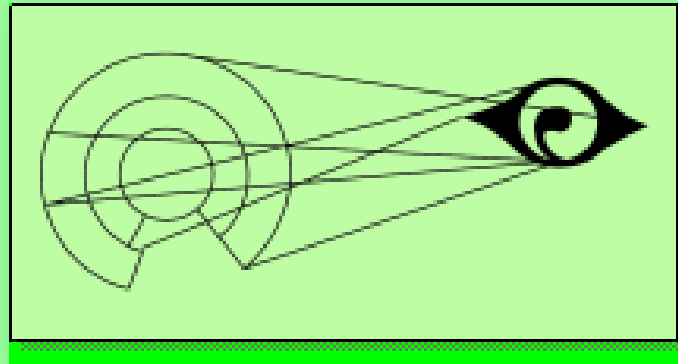


《 説明 》

第16次共同研究経過報告について



期日 平成30年 8 月30日 (木)

場所 フォーポイントバイシェラトン函館

北海道教育研究所連盟 共同研究推進委員会

内容

- 1 第16次共同研究の概要
- 2 第16次共同研究 1 年次の取組
- 3 第16次共同研究 2 年次の取組

1 第16次共同研究の概要

1 第16次共同研究の概要

研究主題

これからの時代の教員に求められる資質・能力の向上に係る支援の在り方

1 第16次共同研究の概要

研究のねらい

各教育研究所・研修センターが、学校支援のために活用する研修コンテンツ等を収集・提供するとともに、各教育研究所・研修センターが実施する北海道の地域性等に対応した教員研修の充実を図ることにより、これからの時代の教員に求められる資質・能力の向上に資する。

1 第16次共同研究の概要

研究内容 1

コンテンツによる支援

研究内容 2

I C Tの活用による支援
～ビデオ通話ソフトウェアによる
遠隔研修～

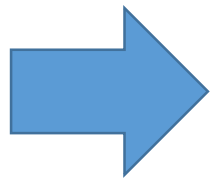
2 第16次共同研究 1 年次の取組

2 第16次共同研究 1 年次の取組

1 年次 (平成29年度)	○ 学校の実態に応じた研修コンテンツの作成 ・ミニ道研の資料等を基にした活用しやすい研修コンテンツの作成 ○ 校内研修に活用できる映像資料の作成 ・所員による映像資料の作成 ○ メンター研修等の実践事例の収集 ・若手教員の育成を目指した短時間で行う研修実践の事例の収集	○ ビデオ通話ソフトウェアの活用の試行 ・所員によるビデオ通話ソフトウェアの活用方法の検討
2 年次 (平成30年度)	○ 研修コンテンツを活用した研修の実施、事例の収集 ・校内研修「道徳科の授業づくり」のミニ研修コンテンツの活用・改善 ○ 校内研修に活用できる映像資料等の活用促進、活用事例の収集 ・「道徳科の授業づくり」に関わる研修コンテンツのプレゼンテーション映像の作成 ・校内研修「道徳科の授業づくり」のミニ研修コンテンツに関わる板書画像等の収集 ○ メンター研修等の実践事例の収集 ・「メンター研修」を中心とした若手教員の育成を目指す短時間で行う校内研修事例の改善または作成	○ ビデオ通話ソフトウェアを活用した研修の試行

研究内容 1

○ 学校の実態に応じた研修コンテンツの作成



ミニ道研の資料等を基にした
活用しやすい研修コンテンツ
の作成

作成した研修コンテンツ

○ 学級経営⇒「演習の流れ」の作成

○ 道徳科の授業づくり⇒実践例の作成

2 第16次共同研究 1 年次の取組

「学級経営」ミニ研修コンテンツ

研修コンテンツ	キーワード
学びに向かう集団づくりを通した学級経営の在り方	学習規律の見直し
	隠れたカリキュラム
	学びに向かう集団づくり
	問題事例からの学級経営改善
自己存在感を高める学級経営の在り方	自己存在感を高める教師の働きかけ (事例のブラッシュアップ)
	支持的風土がある学級づくり
PDCAマネジメントサイクルを踏まえた学級経営の在り方	学級経営上の課題解決
	学級経営の中間評価
	学級経営の見直し

2 第16次共同研究 1 年次の取組

「学級経営」 ミニ研修コンテンツ

進行表

内 容	「学級経営」～学びに向かう集団づくりを通した学級経営の在り方～												
日 時	月 日 () (15～30分)												
ね ら い	「学びに向かう集団づくり」を視点として児童生徒の豊かな成長を目指す学級づくりを推進する力量の向上を図る。												
時 間	内 容 ・ 留 意 点		備 考										
00:00	1 説明【10分】 (1) 学級経営の意義 (3分) (2) 学びに向かう集団づくり (7分)		【配付資料】 ・ PPTシート										
00:10	2 演習【15分】 <table border="1"><tr><td>Key Word</td><td>対象</td></tr><tr><td>学習規律の見直し</td><td>全教職員</td></tr><tr><td>隠れたカリキュラム</td><td>全教職員 (学級担任)</td></tr><tr><td>学びに向かう集団づくり</td><td>全教職員</td></tr><tr><td>問題事例からの学級経営改善</td><td>全教職員</td></tr></table> ※Key Word、対象から行う研修を選択する。 ※進行については、「演習の流れ (別紙)」を参照する。		Key Word	対象	学習規律の見直し	全教職員	隠れたカリキュラム	全教職員 (学級担任)	学びに向かう集団づくり	全教職員	問題事例からの学級経営改善	全教職員	【準備物品】
Key Word	対象												
学習規律の見直し	全教職員												
隠れたカリキュラム	全教職員 (学級担任)												
学びに向かう集団づくり	全教職員												
問題事例からの学級経営改善	全教職員												
00:25 00:30	3 まとめ【5分】 ・ 自身の考え等について、気付いたことを振り返る。												

2 第16次共同研究 1 年次の取組

「学級経営」 ミニ研修コンテンツ

進行表

内 容	「学級経営」～学びに向かう集団づくりを通した学級経営の在り方～											
日 時	月 日 () (15～30分)											
ね ら い	「学びに向かう集団づくり」を視点として児童生徒の豊かな成長を目指す学級づくりを推進する力量の向上を図る。											
時 間	内 容 ・ 留 意 点	備 考										
00:00	1 説明【10分】 (1) 学級経営の意義 (3分) (2) 学びに向かう集団づくり (7分)	【配付資料】 ・ PPTシート										
00:10	2 演習【15分】 <table border="1"><tr><td>Key Word</td><td>対象</td></tr><tr><td>学習規律の見直し</td><td>全教職員</td></tr><tr><td>隠れたカリキュラム</td><td>全教職員 (学級担任)</td></tr><tr><td>学びに向かう集団づくり</td><td>全教職員</td></tr><tr><td>問題事例からの学級経営改善</td><td>全教職員</td></tr></table> ※Key Word、対象から行う研修を選択する。 ※進行については、「演習の流れ (別紙)」を参照する。	Key Word	対象	学習規律の見直し	全教職員	隠れたカリキュラム	全教職員 (学級担任)	学びに向かう集団づくり	全教職員	問題事例からの学級経営改善	全教職員	【準備物品】
Key Word	対象											
学習規律の見直し	全教職員											
隠れたカリキュラム	全教職員 (学級担任)											
学びに向かう集団づくり	全教職員											
問題事例からの学級経営改善	全教職員											
00:25 00:30	3 まとめ【5分】 ・ 自身の考え等について、気付いたことを振り返る。											

2 第16次共同研究 1 年次の取組

「道徳科の授業づくり」のミニ研修コンテンツ



道徳科の実践例 (小学校高学年)

1 本時の目標

- (1) 主 題 名 謙虚に、広い心を持って (内容項目 [B (11) 相互理解、寛容])
- (2) 本時のねらい 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち広い心で自分と異なる意見や立場を尊重する態度を育てる。
- (3) 資 料 名 プランコ乗りとピエロ (出典:「私たちの道徳」)

2 本時の展開

過程	○発問等 (②中心的な発問) ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点 <評価>				
導入	○友達と意見が対立したとき、どうしているだろう。(ポイント①) ・友達とよく話し合う。 ・多数決をとる。 ・わがままなことを言わない。	◆自分の経験から、できるだけ多様な考えを出させる。				
展開 前半	○「プランコ乗りとピエロ」(『私たちの道徳』P84-87)を範読する。 ③ どうしてピエロは最後の言葉 (P87L3) を言えたのだろう。 <table border="1" data-bbox="1124 691 1437 776"> <tr> <td>自分 (ピエロ) がだめだと思っから</td><td>サムがすごいと思っから</td></tr> <tr> <td></td><td></td></tr> </table> ・「自分 (ピエロ) がだめだと思っから」の枠に自分のネームカードを貼る。(ポイント②) ○同じ位置に貼ったもの同士で、理由を話し合おう。(ポイント③) ・どちらも大切なじや無いかな。 ・相手だけでなく、自分のことも振り返ることが大切。等	自分 (ピエロ) がだめだと思っから	サムがすごいと思っから			◆ネームカードを貼らせることで、自分の意見をもたせる。 ◇自分の考えをもつことができたか。(立場表明・意見)
自分 (ピエロ) がだめだと思っから	サムがすごいと思っから					
展開 後半	○自分の経験を振り返り、似たような場面の時の様子と、どうすればもっと良かったか考えよう。(ポイント④)	◆ワークシートの活用 ◇自分と異なる意見や立場の違う人との関わりについて考えている。(ワークシート)				
終末	○これからどんなことに気をつけたいだろう。(ポイント⑤) ・友達に伝える前に自分のことも考える。 ・もめ事があったとき、相手の意見も考える。 ・みんなのことも考える必要がある。	◆授業のはじめと比べ、変わったところも指摘する。 例) 話し合いの時の見方 謙虚になることの大切さと楽しさ				

3 授業におけるポイント

ポイント①	○自分の経験を振り返ることにより、道徳的な問題を自分ごととして捉えられるような発問にしています。
ポイント②	○ネームカードを貼るにより、自分の考えや立場を明確にするとともに、答えが一つではないことを可視化しています。
ポイント③	○はじめに、同じ意見同士で話し合うことで自分の考えを深めさせています。次に、自分と異なる意見の人と話し合うことで、様々な考えに触れさせています。
ポイント④	○再び、自分の経験を振り返ることにより、資料を読む前よりも考えが深まるようにしています。
ポイント⑤	○今後の活動へ向けて考える場面を設定しています。

4 模擬授業後の協議で出された意見・感想

- 展開前半では、「自分がだめ」「サムがすごい」という考えだけでは、判断が難しかった。
- 展開前半では、2択以外の考えも示すことができるようにしてもよかった。
- 展開後半では、導入部分と運動する部分で板書を効果的に活用すると、よりスムーズに振り返ることができたのではない。

2 第16次共同研究 1 年次の取組

「道徳科の授業づくり」のミニ研修コンテンツ

3 授業におけるポイント

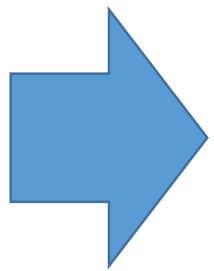
ポイント①	○自分の経験を振り返ることにより、道徳的な問題を自分ごととして捉えられるような発問にしています。
ポイント②	○ネームカードを貼ることにより、自分の考えや立場を明確にするとともに、答えが一つではないことを可視化しています。

4 模擬授業後の協議で出された意見・感想

- 展開前半では、「自分がだめ」「サムがすごい」という考えだけでは、判断が難しかった。
- 展開前半では、2 択以外の考えも示すことができるようにしてもよかった。
- 展開後半では、導入部分と連動するので板書を効果的に活用すると、よりスムーズに振り返ることができたのではないか。

研究内容 1

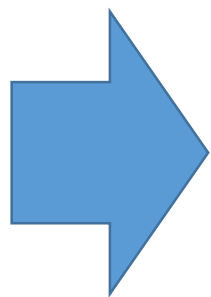
○ 校内研修に活用できる映像資料の作成



- 研修コンテンツに関わるプレゼンテーション映像

研究内容 1

○メンター研修等の実践事例の収集



若手教員の資質・能力の育成を目指した短時間で行う
研修実践の事例の収集

2 第16次共同研究 1 年次の取組

【石狩教育研修センター】

「メンター研修」を中心とした、若手教員の育成を目指す短時間でを行う校内研修の事例

研修名：道徳的価値について考えを深めさせる授業づくりを進める研修

目的：道徳の授業で『道徳的価値』について考えを深めさせるために効果的な「中心的な発問」を考える。

学校種	中学校	研修時間	30 分
対象	(メンティ)：道徳的価値について考えを深めさせる授業づくりに悩む若手教員 (メンター)：道徳教育推進教師および学年団		
配付物	・若手教員の道徳学習指導案およびワークシート		

メンター及びメンティを具体的に示しました。

■ 展開

時間	主な内容	備考
1 分	1 オリエンテーション ミニ研修の目的を確認する。	※道徳教育推進教師が模擬授業の流れを説明する。
20 分	2 模擬授業 (1) 若手教員が授業者として「中心的な発問」を行い、道徳的価値について考えをどう深めさせるか模擬授業を行う。 (2) 効果的な「中心的な発問」となるように、活発な議論を生み出し、ねらいに迫る発問となっているかを模擬授業のポイントとする。 (3) 学年団の先生方は、生徒役として生徒が考えそうな発言を行い、若手教員は道徳的価値について考えを深めさせる授業展開を模索する。	※時間が短いため、範読などは行わない。 ※学年団は同一の教材を扱うため、内容は事前に理解している。
8 分	3 グループ協議 効果的な「中心的な発問」となっているか交流する。	※教師の個性も尊重しつつ、道徳的価値について考えを深める観点から交流する。
1 分	4 まとめ 道徳学習指導案の修正点、授業展開の工夫点などを道徳教育推進教師を中心にまとめる。	

若手教員の育成に向けて期待される成果を具体的に示しました。

期待される成果	道徳の授業において、道徳的価値について考えを深めさせることが大切であることから、そのための発問に着目し、活発な議論を生み出す授業展開を工夫することにより、様々な立場で研修ができ、より良い授業づくりに期待ができる。
---------	--

研究内容 2

○ ビデオ通話ソフトウェア活用の試行



ビデオ通話ソフトウェアを活用した研修の体験について

【メリット】

- 移動の必要がないため、時間を有効に使える。
- 各学校で活用できれば、研修の機会が増える。
- 遠隔地だけでなく、小中連携、他校種、他管内との交流ができる。

3 第16次共同研究 2 年次の取組

3 第16次共同研究2年次の取組

1年次 (平成29年度)	○ 学校の実態に応じた研修コンテンツの作成 ・ミニ道研の資料等を基にした活用しやすい研修コンテンツの作成 ○ 校内研修に活用できる映像資料の作成 ・所員による映像資料の作成 ○ メンター研修等の実践事例の収集 ・若手教員の育成を目指した短時間で行う研修実践の事例の収集	○ ビデオ通話ソフトウェアの活用の試行 ・所員によるビデオ通話ソフトウェアの活用方法の検討
2年次 (平成30年度)	○ 研修コンテンツを活用した研修の実施、事例の収集 ・校内研修「道徳科の授業づくり」のミニ研修コンテンツの活用・改善 ○ 校内研修に活用できる映像資料等の活用促進、活用事例の収集 ・「道徳科の授業づくり」に関わる研修コンテンツのプレゼンテーション映像の作成 ・校内研修「道徳科の授業づくり」のミニ研修コンテンツに関わる板書画像等の収集 ○ メンター研修等の実践事例の収集 ・「メンター研修」を中心とした若手教員の育成を目指す短時間で行う校内研修事例の改善または作成	○ ビデオ通話ソフトウェアを活用した研修の試行

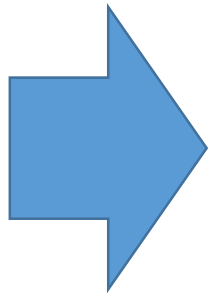
3 第16次共同研究2年次の取組

○ 研究内容1 コンテンツによる支援

- 校内研修に活用できるミニ研修コンテンツ
「道徳科の授業づくり」の活用・改善
- 校内研修に活用できるスライド画面等のプレゼンテーションの作成、ミニ研修コンテンツに関わる板書画像等の収集
- 若手教員の育成を目指す「メンター研修」等において、短時間で行う校内研修事例の作成または改善

3 第16次共同研究2年次の取組

- 研究内容2 ICTによる活用の支援
 - ・ ビデオ通話ソフトウェア（Skype）を活用した研修の試行



W i - F i ルーター、W e b カメラ
マイク、スピーカーを事務局から
貸し出す

3 第16次共同研究2年次の取組

- 研究内容2 ICTの活用による支援
 - ビデオ通話ソフトウェア（Skype）
を活用した研修の試行

<活用例>

- 夏季所員研修会における模擬研修
- 岩見沢市立教育研究所⇔市内の学校
（講義の配信）
- 根室教育研究所⇔所員所属の学校
（所員会議）

○ 夏季所員研修会

- ・ 教育研究所・研修センター所員等のニーズを把握



今日的な教育課題（「いじめ・不登校への対応」「外国語活動・外国語」「道徳教育の充実」「特別支援教育」）の講義・演習を実施

3 第16次共同研究 2 年次の取組

○ 夏季所員研修会

- 独立行政法人教職員支援機構「研修の企画・運営・評価」の研修動画を活用した講義・演習を実施

【成果】

- 研修講座の企画・運営について多くのヒントを得ることができた。

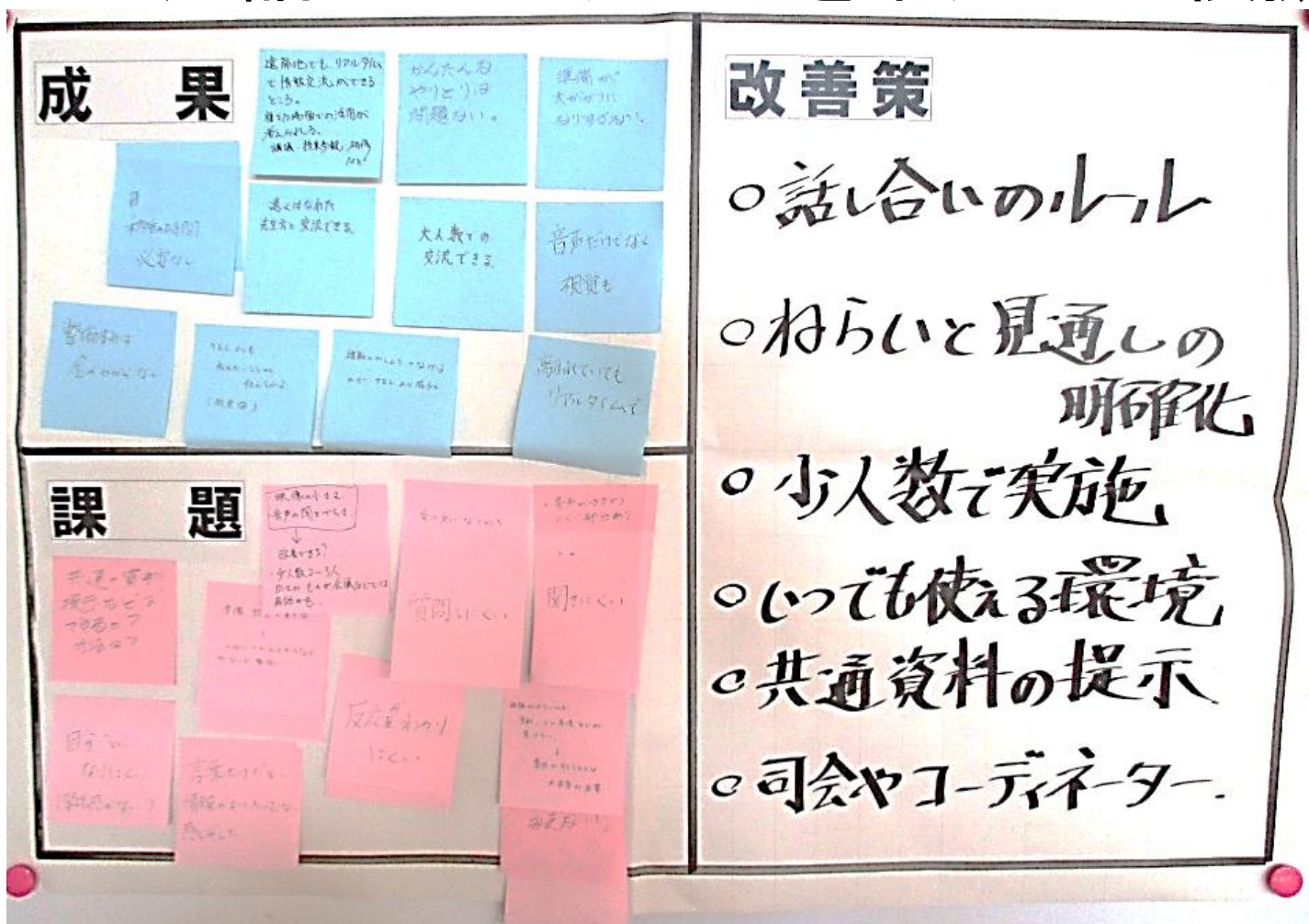
【課題】

- 教育研究所・研修センターが多様化するニーズにどのように対応し研修講座等を設定しているか、共有する必要がある。

3 第16次共同研究2年次の取組

○ 夏季所員研修会

・ ビデオ通話ソフトウェアを活用した模擬研修



3 第16次共同研究 2 年次の取組

○ 夏季所員研修会

- ・ ビデオ通話ソフトウェアを活用した模擬研修

【成果】

- ・ ビデオ通話ソフトウェア等を用いて遠隔地を結ぶことで、移動の時間が短縮でき、話し合いたいことに時間をかけられると感じた。

【課題】

- ・ ビデオ通話ソフトウェア等の I C T を活用した研修の活用場面や利用方法の実例を普及・啓発し、利活用を促す必要がある。

3 第16次共同研究2年次の取組

○ 夏季所員研修会

- 外部講師による「ワークショップファシリテーションの組み立て方と実践」の講演
- 演習では、会議を進行するための司会、記録係、タイムキーパーを決め、それぞれの会議のゴールや方法について打ち合わせた後、模擬会議を実施



3 第16次共同研究 2 年次の取組

○ 夏季所員研修会

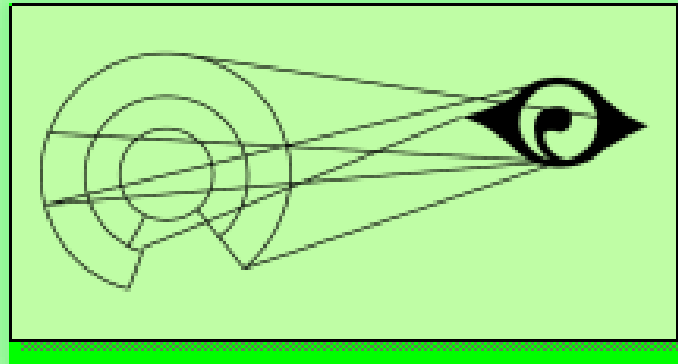
- ・ 外部講師による「ワークショップファシリテーションの組み立て方と実践」

【参加者アンケートから】

- ・ 会議等を円滑に進めるために、ファシリテーションを取り入れた研修を実施して、管内に還元していきたい。
- ・ 外部の実践家からレクチャーを受けることができ大変参考になった。授業や職員会議、研修など、あらゆる場面で活用できると感じた。
- ・ 会議の進行は授業同様、事前の計画や「めあて」と「まとめ」が大切であることと実感した。

《 説明 》

第16次共同研究経過報告について



期日 平成30年 8 月30日 (木)

場所 フォーポイントバイシェラトン函館

北海道教育研究所連盟 共同研究推進委員会